国境 駒背越し 稜線 四ツ足峠

西原へ

石立山登山口

別府

工務へ

国道195号線

四ツ足峠
慶応時代、別府の土居には関目番所が置かれていた。
木屋に越える峠を四ツ足峠。
珍奇な峠名の由来は、この峠に古い地蔵堂があり
床柱が高い高殿式で、四本足のように突っ立ち
二本は阿波側に、二本は土佐側に位置していた
ことから、お堂を四ツ足堂と称し
この峠を四ツ足峠と呼ばれてきた。

石立山へ

四ツ足峠(1030m)
四ツ足堂

日和田へ

石立山登山口

別府へ

周囲の四ツ足峠越えは険路である。
無事に峠を越えることは神仏の庇護
によるものであると考えていた。
今の交通安全を願い、山の神に祈願
とする工・阿南周の里人は、峠を
聖なる地として堂を建立した。

人工林
ダバ

四ツ足トンネル中央の県境地点、側壁に
「四ツ足地蔵」が祀られている。

谷筋

養老年間(717~724)
に建立された宮道
と養老宮道として
四ツ足峠説と野根山
街道説がある。

四ツ足峠の北方には「石立山」(1707m)が
そびえ南方には「行者山」(1346m)へ
稜線が続く。
この両山を結ぶ接部が四ツ足峠。
四ツ足峠の古名は「伊土山峯の峠」。
養老年間(717~724年)に中央と
地方を結ぶ経路として、那賀川に
そって土佐国境に至り、物部川に
平行して土佐国府のあった南国市
に至る宮道であったと考えられている。

石立山頂には石立神社、石立大明神
と伝える祠があり、昔は石立弘神会
と称する宗教団体があって例祭
が行なわれていたともいう。
(石立山の西側には「捨身ヶ嶽」という
行場もある。山頂の祠は大山祇命
役の行者を祀る。)
行者山も名前のとおり、山伏修業
を行う行者と深いかかわりがある
ことだろう。
「拔山(ばつやま)風土記」には、石立山
は聖(ひじり)の山であり、修験者
以外の入山が禁止されていたこと
が記されている。
修験者にとって最高の霊山と
される石立山を含めたこの一帯の
尾根を修業する山伏がさかん
に行き来していたことだろう。
そして四ツ足堂も山岳鎮護の
祈堂として、あるいは石立山修験
の宿泊所として山岳宗教に
とって重要な存在であった。

人工林

行者山国有林

天然林

ヤセ尾根

広い山海の行者山

千本谷林道へ

物部川と那賀川との分水嶺。
どちら側に降るかで水の行き
先が変わる。
分水嶺を歩く時、これまで自分が
越えてきた人生の分水嶺を
思い浮かべたりする。

池

池

1326m

行者の広場

行者山
1346m

真北に石立山
南に赤城尾山
360°山々を眺望
(三角点なし)

国有林の境界線が
目印となる。

サイニヨウ国有林

ゆるやか

小ピーク

赤城尾山真正面

参考文献
「土佐の峠風土記」

修験者がこの尾根を
歩いていた時代と
いうのは、人がみな
神仏を信じることが
できた時代だったこと
だろう。
険しい山道を歩くことで
御仏が身近にいる
ことを実感したことだろう。

ヒメシロウの
若い林

30年くらい前、祖谷で
ツキノワグマが捕獲された。
動物園かどこかへ輸送する
ため、クマオリに丸太をさし込
んだら大暴れして丸太背を
くいやぶるほどだった。
近くでそれを見ていた
おばちゃんが、とっさに持っていた
カンロ飴を投げ入れたところ
クマはよろこんで、カンロ飴を
カリカリと食べておとなしく
なって、どこかへ運ばれたという。
(当時、祖谷山事業所に
勤務していたKさん談)

危険
ナイフエッジ
細心の注意が必要

岩場の
やせ尾根

赤城尾山
(あかぎお・あかぎのう)

1436m

ブナ広場

おだやかな
広葉樹林の
斜面が美しい。

急

この稜線はとても長く
大変険しい山域である。
ツキノワグマとの遭遇や道迷い、滑落など遭難の危険
が非常に高いといえます。
決してあなどることなく
万全の安全対策と備えを
必要とするコースです。

山での一日を振り
返って、笑顔になれる
山行だったらいい
なあ。
安全登山でありますように。

石立山(1707m)より南へのびる
土阿国境稜線は西ヌ山~
甚吉森~湯桶丸へと続くが
この赤城尾山を越える山はない。
深い谷から立ち上がる堂々たる山容。

物部

杉ノ熊山国有林

ツキノワグマ足跡
(2017.11.3)

大崩壊

甚吉森よく見える

美しい高標線の
天然林が広がる

クマに聞いた
わけではない
けれど、甘い
カンロ飴が
好物らしい。

徳島県側
人工林

距離表

駒背山~尾根	約1km
~赤城尾山	3.5km
~行者山	5.5km
~四ツ足峠	8.0km

南下ではこの尾根に
とまどう。
慎重に。

シカのお尻は白い
シカに聞いたわけではないけれど
シカは夜行性なので夜の山中で
仲間を追いかけやすいから
白いお尻が目印になっている
らしい。

光合成の役目を終えた葉っぱは
お迎えの風が吹くと、ほんの
一瞬だけ自由に空を舞う
ことができる。
次の森には養分として新しい命
になることを知っているのか、
とてもいさぎよく、愛しく見える。

駒背山
1306m

崩壊地

尾根に出るとすぐ右折。北へ。

R195号へ

那賀町看板
「なかは
なかなか
いいなか」

ブナ天然林

ザレ

下っていると徳島側への
歩道にのるので注意。

急坂

人工林

徳島側歩道取り

久々場山へ

久々場山へ

物部

馬の背山登山口へ

トンネル西口から入って
1つ目の尾根を
直登

高ノ河西丸山へ